

勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置協議会ニュース



平成30年2月20日発行 第3号

みんなでつくる 新たな学校



子どもの未来

生野区では、勝山中学校と鶴橋中学校を再編し、教育環境の改善を図る取組を進めています。勝山中学校・鶴橋中学校 学校設置協議会（以下、「協議会」といいます）（第3回、平成30年2月7日）が開催されましたので、協議結果などをご報告いたします。

（1）出席状況

【定数：地域まちづくり協議会推薦者 各2名、中学校PTA推薦者 各9名】

（出席数）25名

勝山地域まちづくり協議会	2名	東桃谷地域まちづくり協議会	2名
北鶴橋まちづくり協議会	2名	鶴橋ふれあい協議会	2名
勝山中学校PTA	8名	鶴橋中学校PTA	9名

（2）議題

- 1 部会からの報告
- 2 議事 ① 開校場所について ② 開校時期について ③ 校名について

（3）部会からの報告

平成30年1月26日に開催された協議会部会「再編運営委員会（以下、「委員会」といいます）」の検討内容について部会長より報告がありました。

※委員会とは、両中学校PTAからの推薦委員で構成された協議会の部会で、学校再編の基本項目の検討について、効率的・効果的に議論を行う場で、平成30年1月26日に初会合が行われました。委員会で検討した内容は、協議会で報告したうえで、協議し、最終決定を行います。

報告内容

- ・ 部会長、副部会長は、互選とし、尾形 義則 部会長（勝山中学校PTA）、石山 豊子 副部会長（鶴橋中学校PTA）を選出した。
- ・ 開校場所、開校時期、学校名について、次のとおり委員会案を決定した。
 - ◇ 開校場所は、現在の勝山中学校の校地とする。
 - ◇ 開校時期は、平成31年4月とする。
 - ◇ 学校名については、委員会での検討事項とする。
- ・ 協議会への報告にあたり、開校場所に関連して勝山中学校の大気測定データの資料を、開校時期に関連して再編後の教員体制に関する資料をそれぞれ提出するよう事務局へ依頼した。
- ・ 校名については、委員会委員で学校名の案を持ち寄り、本協議会終了後に委員会を開催し、学校名の候補を絞り込んだ上で、在校する中学生を対象にアンケートの実施を検討する。
- ・ 主な委員会の意見は次のとおり。事務局より、今後出てきた課題や問題に対し、区役所や学校も一緒になって、対応すべきことは対応するとの回答を得ている。
 - ◇ 再編後の教育内容については、どういう内容になっていくのかが分からない。進捗に応じて内容が分かる資料を示してほしい。
 - ◇ 早期に鶴橋中学校の現状の課題解決を図っていく必要があるのではないか。
 - ◇ 小さいことに不安になり、開校時期が延びてしまうことの方が大きな問題になるのではないか。
 - ◇ 様々な課題が出てくるのは当たり前で、課題が出てきたときに、協議会や委員会で意見を出し合い、解決していくべきではないか。

(4) 協議の結果 (いただいた主なご意見は★に記載)



開校場所について

決定事項

開校場所は、現在の勝山中学校の校地とする。

○ 委員会で依頼のあった勝山中学校の大气測定データについて

※詳細は配布資料 『参考2 二酸化窒素（NO₂）測定データ』を参照ください。

- ・ 勝山中学校の二酸化窒素の濃度は年々低下しており、市内の平均値を下回っており、国の定める環境基準も満たしています。ほかにも4項目の測定をしていますが、問題はありません。
- ・ 鶴橋中学校での大气測定データはありませんが、近隣の観測結果が基準内であることから、問題はないと考えています。

行政

- ★ 鶴橋中学校と勝山中学校の環境を比べれば、幹線道路に接する勝山中学校より鶴橋中学校の方が環境的には良いのではないかと話が出ていた。環境面で、両校に問題がないことは当然であるが、新しい学校で騒音や異臭の問題があったときにどういった対応ができるのか。

騒音や臭気が生じた際は、原因を調査し、しかるべき対応を行います。子どもたちの教育環境を守るという立場は、行政もみなさんと同じであり、適切に対応していくという姿勢です。なお、現在の勝山中学校と鶴橋中学校では、騒音や臭気の問題はありません。

行政

- ★ なぜ、新たな中学校の校地は勝山中学校なのか。鶴橋中学校の方が静かかと思う。また、校地面積は、鶴橋中学校の方が広い。校地を勝山中学校とした提案に至った経緯を知りたい。

校地については、新たな校区の中心点にどちらが近いかといった点や、より高い小中連携の効果が期待できるのはどちらかといった点を総合的に勘案して、勝山中学校の校地を使う方がいいのではないかと、提案してきました。

行政

- ★ 中学校と言ってもやはり地域に根差した学校であり、子どもだけの学校ではないと思う。地域のよりどころ的なところはあり、特に北鶴橋小学校区では距離が遠くなればその分思いも遠くなるとの意見を聞いている。

北鶴橋小学校の校区については、場所によって距離は変わるが、校区の大きさで見れば距離は変わらない。

行政

開校時期について

決定事項

開校時期は、平成31年4月を目標として進める。

○ 委員会で依頼のあった再編後の教員体制に関する資料について

※詳細は配布資料 『参考3 教員の定数（再編運営委員会資料に追記）』を参照ください。

- ・ 実際に配置される教員数は、資料にある普通学級数に応じて配置される教員定数に加えて、特別支援学級の担当や、学校の取組や状況等に応じた教員の加配があります。このため、再編後の教員数は、現時点ではっきりと出すことができません。
- ・ 教員体制として、再編後だけではなく、再編する前の教員の加配についても平成30年度の予算として要求しているところです。

行政

- ★ 再編後の教員数について、実際、特別支援学級が何学級になるか分からないなど教員の加配が確定しないため出せないとの話だったが、それ以外の教員数はいつになれば出すことができるのか。教員体制や教育環境は、保護者の方にとっては、一番不安なところでもある。
- ★ 現時点で、再編後の教員数を出すことは教員の加配によるところがあり、難しいという状況は理解できる。教員の配置について、今、掘り下げても答えは出ない。
- ★ 学校が一緒になっても教科数が増えるわけではない。再編後に全学年複数学級になることで、教員定数が増え、1教科に対して1人以下であった教員が2人以上になる。その時点で充実していることになるのではないかな。
- ★ 教員の人数だけ示されてもイメージがつかない。例えば、鶴橋中学校で1年の担任が何人、あるいは教科担任が何人という形で、現状の人数で分かるものをピックアップし、再編後、どういった教員が1人または2人になるのかといったイメージを示してもらえると分かりやすいのではないかな。

教員の加配については、年度毎に検討しますので、確定した人数はお示しできません。
また、現状と平成31年度の教員体制について、単純に教員数だけではなく、各学年の教員数と各教科担任の教員数も分かる資料を検討します。

行政

- ★ 翌年に受験を控える再編時の3年生については、今見てもらっている中学校の教員の方が生徒たちのことを分かっているように思う。今いる教員に、例えば1年間だけでもそのまま新しい中学校に行ってもらおうような配慮はできないかな。

再編後の教員の配置については、なるべく子どもたちに不安が生じないよう配置していきたい。子どもたちの進路についても考慮し、バランスを考えた教員の配置を学校と相談しながら考えたい。

行政

- ★ 生徒数の推計は、何年先までデータが出るのか。学級数が減ったときにまた統廃合になることも考えられる。たった10年、15年後くらいで、単学級になればまた統廃合するのか。

今生まれている子どもの人数を元に推計しているため、平成41年までの推移となります。生まれていない子どもの推計は正確な推計にはなりません、何かお示しできないか検討します。

行政

- ★ 将来の子ども数の問題から、子どもたちの教育環境に課題が出てきたため、学校再編の問題が生じてきている。中学校を再編し、いい学校づくりをまちづくりと一緒にしていかなないと、いつまでたっても地域に子どもは増えないのではないかな。学校再編をマイナス面だけでとらえるのではなく、前向きに進めていかなければいつまでたっても協議が進まない。
- ★ 最終的には子どもたちにとって一番良い時期はいつかということではないかな。子どもたちのことを最優先して、開校時期を決めていくのがベストではないかな。再編を遅らせることで一部の行事ができないなど、子どもたちがかわいそうな立場におかれることになる。そういった問題を早く解消できるのであれば、開校時期が早くなってもいいのではないかな。

校名について

決定事項

学校名については、委員会での検討事項とする。

★ 仮称の学校名で開校できるのであれば、開校後に中学校に在籍している生徒や保護者に学校名を決めてもらうのがいいのではないかな。

- ・ 再編後の学校を開校するには、学校の場所、学校名、開校時期の3つを決めたうえで、市会において学校設置条例の改正を提案し、決議を経る必要があるため、仮称の学校名では開校できません。
- ・ 平成31年4月に開校する場合、遅くとも平成30年9月の市会で提案できるよう学校名などを決定しておく必要がありますが、9月市会となると制服などの物品の調達に遅れが生じる恐れがあるため、5月の市会で提案していくことが望ましいとして、ご説明してきたところです。

行政

- ★ 勝山中学校の方が生徒数が多いため、多数決になれば勝山中学校寄りの校名となる。各学校とも自分の学校に愛着があることから、全く別の名前にする方が賢明ではないかな。
- ★ 学校名については、部会でいろいろな案を練ったうえで、協議会の委員の意見を聞きたいとして報告されたと思うので、最終的な案は部会から出してもらえればと思う。
- ★ できるだけ地域に近い名前を考えていただきたい。

(5) その他

学校の跡地について

- ★ 鶴橋中学校の跡地について、小学校の再編後に未利用地として売却するとしているが、地域の方々にしてみれば、身近な避難所はなくなり、生活する上で安心して過ごせないと感じ、生野区から人が出ていくと思う。今後、地域を活性化し、人口を増やしていこうとする中で逆行しているのではないかな。未利用地ではなく、利用地に変えるなどの対策を打つ方法はないのかな。

大阪市全体で、廃校となった学校の跡地は売却という方針でこれまでも臨んできています。生野区の場合、西部地域が密集住宅市街地で木造建築も多く、跡地を避難所として使うことが重要であることを区としても訴えてきたことで、生野区においては学校再編を大規模にやる前提のもとに、小学校の跡地については避難所として継続して残し、使い方については区でマネジメントをとるとして、了解をいただいていたところです。ただし、中学校については、今のところ大阪市の全体の方針に従わざるをえないのが今の状況です。

行政

意見等

- ★ 2つの中学校が一つになれば、経費が浮いてくる。その浮いたお金を極力、新しくできる中学校に使ってほしい。

確認事項

- ・ 次回協議会は、学校名について協議する。開催日は、3月7日(水)19時からとする。
- ・ 次回協議会の開催に先立ち、委員会を開催し、校名に関する協議を行う。

学校再編に関する情報は生野区ホームページでもご覧いただけます。

生野区西部地域学校再編の動き

検索



発行

学校設置協議会 事務局
(生野区役所 地域まちづくり課)
電話：06-6715-9920